

# 普通期 稲作情報 第2号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

## 1 気象と生育概況

宗像アメダスによると6月1日～7月20日の平均気温は平年より0.5℃高く、日照時間は平年比96%、降水量は平年比166%で経過しました。6月19日移植水稻（試験場の作況調査）では草丈は10%～15%長く、茎数は10%～20%少なく、葉齢は0.7葉少なく（生育が遅れている）経過しました。

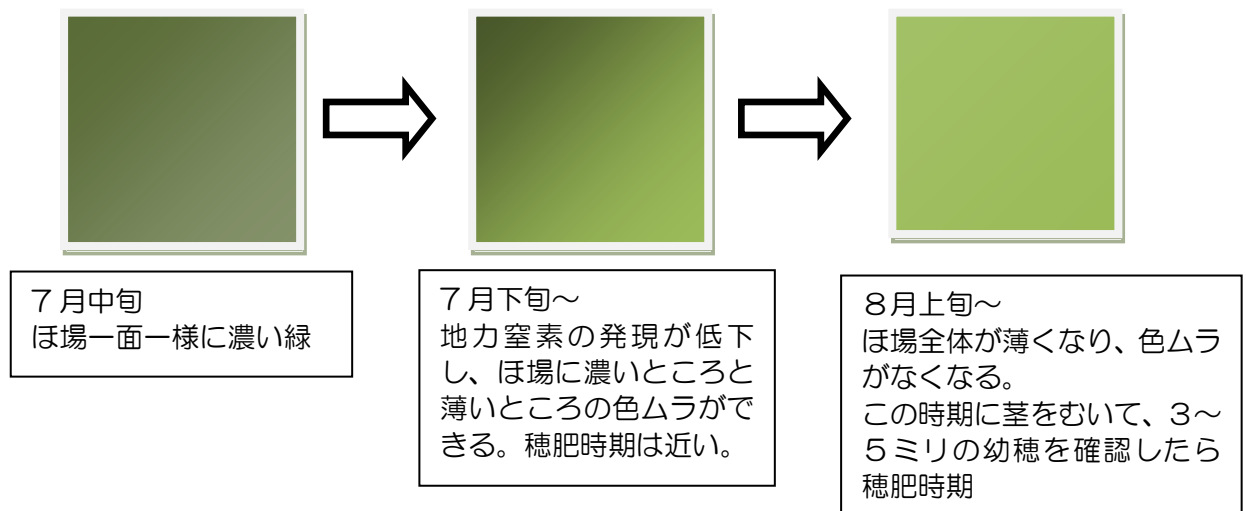
今後は以下の事に留意してほ場の管理を行いましょう。

## 2 水管理

6月中下旬植えの早生～中晩性品種は、間断かん水を実施し有効茎が確保され次第、中干しを開始する。本年は軟弱徒長の生育で、稈が伸びると倒伏が懸念されるため、中干しを徹底する。しかし、ジャンボタニシ対策で田植後浅水～落水管理となったほ場は茎数が少ないため、中干しを弱めに行い茎数を確保しましょう。

## 3 穂肥

穂肥時期の決め方（6月20日移植のヒノヒカリの例）



品種別出穂期予想と穂肥時期（一般平坦地）

品 種	予想出穂期	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
夢つくし	8/11頃（6/9植）	7/24頃	
つくしろまん	8/20頃（6/20植）	8/1頃	
元気つくし	8/20頃（6/20植）	8/1頃	1回目から7日後
ヒノヒカリ	8/29頃（6/20植）	8/9頃	
ツクシホマレ	9/3頃（6/20植）	8/14頃	1回目から7～10日後

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。

#### 4 病害虫防除

本年は、トビイロウンカの飛来時期が平年より早く、発生量も坪枯れが多発した昨年より多く、福岡県農林業総合試験場(福岡県病害虫防除所)から、7月14日に**注意報が発表**されています。

今後ほ場内で急激に増加し、収穫前の「坪枯れ」につながることも懸念されますので、発生状況に十分注意してください。

**【要防除水準】トビイロウンカ：幼虫の合計数**

- ・飛来後第1世代(7月中旬～下旬)： 20頭/100株以上
- ・飛来後第2世代(8月中旬～下旬)： 100頭/100株以上

また、本年はコブノメイガの飛来も多くなっていますので多発の場合はウンカ類と同時防除を行いましょう。

いもち病も7月以降の低温多雨で山間地での発生が確認されていますので、今後の発生に注意してください。

#### 補正防除（ウンカ類、コブノメイガ、カメムシ類）

薬剤名	防除時期	散布量
キラップジョーカーフロアブル	収穫14日前まで	1000倍

#### 補正防除（葉いもち）

薬剤名	防除時期	散布量
ビーム粉剤DL	発生初期 (収穫7日前まで)	3~4kg/10a
ノンプラスフロアブル	発生初期 (収穫7日前まで)	1000倍
コラトップ豆つぶ	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日前～5日前まで	250g/10a

#### 5 斑点米カメムシ類の耕種的防除について

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、**出穂2週間前までに草刈り**を行いましょう。

(※出穂直前になってから除草すると、雑草に生育していたカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります)